

馬場教授の 海外金型見て歩記



第7部 —— [ブラジル編]

第10回

ブラジルの移民と工業： イタリア系移民都市カシアス・ ド・スルの成立と発展

馬場敏幸 Toshiyuki Baba

東京大学大学院先端学際工学専攻修了。博士（学術）。東京大学先端科学技術研究センター勤務を経て、法政大学勤務。現在、法政大学・大学院経済学部教授。講義科目は現代アジア経済論、地域経済論、科学技術史など。趣味の1つとしてさまざまな国の金型企業を訪問。

ブラジルの産業発展は移民とつながりが見られる。以前、ドイツ移民の街、ジョインビレ (Joinville) でドイツ風の金型産業が発展している様子を伝えた。今回は、イタリア系の金型産業集積が見られるカシアス・ド・スル (Caxias do Sul) という都市の成立と主要産業について記してみたい。

ブラジル最南端の州のイタリア系中核都市

カシアス・ド・スルはブラジル最南端の州であるリオ・グランデ・ド・スル州 (Rio Grande do Sul, 南大河州) 北部の山間に位置する標高 760 m の高原都市である。リオ・グランデ・ド・スル州は、ブドウ、ワイン、大豆、タバコなどの農産物、牛肉や皮革などの牧畜が有名であるが、自動車生産でも著名な地である。



ブラジル南端のイタリア系移民工業都市、カシアス・ド・スル (馬場作成)

この地の自動車生産では今回紹介するカシアス・ド・スルが重要な拠点となっている。

カシアス・ド・スルの人口は、同州の最大都市である州都ポルト・アレグレ (Porto Alegre) に次いで2番目である。ブラジル地理統計研究所 (IBGE) 2018年人口推計によると、リオ・グランデ・ド・スルの人口は 11,329,605 人、ポルト・アレグレが 1,479,101 人、カシアス・ド・スルが 504,069 人である。カシアス・ド・スルは 50 万人の人口を有するブラジル南部地域の中核都市の一つなのである。人口 50 万人規模の都市を日本で見ると、金沢市が 464,220 人 (令和元年 5 月)、宇都宮市が 519,629 人 (平成 31 年 3 月)、兵庫県西宮市が 487,402 人 (令和元年 5 月)、松山市が 481,027 人 (同) など。ちなみに金沢市は、ポルト・アレグレと姉妹都市提携を行っている。

カシアス・ド・スルの成立とイタリア移民

カシアス・ド・スルは、ブラジルのイタリア移民の中心都市である。1875 年に最初のイタリア植民団がこの地に到着した。1976 年の国勢調査では 2,000 人の入植者が確認されている。1877 年にカシアス植民地と命名され、1910 年には都市カテゴリーに昇格した。イタリアから南米への物語として、日本では「母をたずねて三千里」というアニメにもなった「クオーレ」(E・デ・アミーチス著) が有名である。アルゼンチンに出稼ぎに行った母をたずねて、イタリア・ジェノヴァから 9 歳のマルコ少年が旅する話である。マルコ少年が旅をしたのが 1882 年。カシアス・ド・スルは、ちょうどその頃のイタリアからの出稼ぎや移民の潮流の中で成立していった。

イタリアは 19 世紀のイタリア統一運動 (1815~1871 年) を経て独立した。数多くの戦乱を経て 1861 年にイタリア王国が成立、1870 年にイタリア軍がローマを併合し、現在とはほぼ同じ国土になった。こうして多くの戦乱を経てようやく国土の統一と独立を果たしたイタリアであったが、この当時の治安は悪く、経済力は低く、多くのイタリアの人々は非常に貧しい生活を強いられていた。こうした中、たくさんのイタリアの人々が出稼ぎや移民で海外に旅立っていった。当時のブラジルは深刻な労働力不足に陥っており、積極的な移民受け入れを国家的に行っていた。

イタリア北部の農民を中心とした移民団が 1875 年 5 月、ポルト・アレグレ港に到着した。彼らは新天地を求めて来たわけだが、ポルト・アレグレはドイツ移民が 1824 年から入植を開始しており、利便のよい土地にはすでに先行組が入植していた。このため、イタ